

## 答 辞

冷たい風の中にも、かすかな春の匂いが混じる頃となりました。本日は、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、このような素晴らしい卒業証書授与式を挙げていただきましたことに、心より御礼申し上げます。また、ご多用の中、温かいご祝辞と激励のお言葉を賜りましたこと、重ねて深く感謝申し上げます。

さて、高志中学校・高等学校の校訓に、「克己」という言葉があります。その語源は、論語の一節、「己に克ちて礼に復るを仁と為す」にあるといわれます。自らの欲や感情を律し、正しい道に立ち返ることこそが、人としての徳であるという教えです。

入学当初の私たちは、その意味をどれほど理解していたでしょうか。生活ノート「ロートウ」をどこに提出すればよいのかすら分からずに戸惑った朝。部活動オリエンテーションの日に、あの晴れ渡った空の下で抱いた胸の高鳴り。迷子にならないかとドキドキしながらも、初めての経験に目を輝かせて、大きな校舎を歩き来していたあの日の自分を、今でも鮮明に思い出します。

しかし、あれほど新鮮味にあふれていた校舎も、日々を重ねるうちに日常へと変わっていきました。それは、時を経て、目に映るものへの期待が色あせてしまったからではありません。私たち自身がこの場所を創り上げる一部であり、ここが自分の居場所だ、と、疑いなく思えるようになったからだと思います。

気づけば三年。早すぎるほどの時間の中で、私は少しずつ変わりました。

楽な方を選ばなくなったこと。迷ったら挑戦しようと思えるようになったこと。その他にも様々な経験を経て、努力をして、身も心も成長しました。

逃げたい自分、甘えたい自分と向き合い、もう一歩だけ前へ進む。その静かな決意こそが、私が三年間で学んだ「克己」でした。

高志中学校での三年間は、様々な学びに溢れたものでした。

まだ名前も知らない仲間と準備を進めた嶺南研修。カレーを囲みながら見た夕日は、言葉にできないほど美しく、一方で、先生方に迷惑ばかりかけていた自分たちの未熟さも同時に思い出されます。

三日間、社会人の方々と向き合い、「働く」ということの意味を知った職場体験。本格的に始まった個人での探究活動について、東京の地で全力で学び、全力で考え、そして全力でディズニーシーを楽しんだ東京研修。そして、まだまだ先だと思っていたシンガポール研修。三年間の集大成として、準備や事前学習から、学年が一丸となり、全力で取り組みました。

これらの活動で、幾度となく私たちの課題となったのが「自分たちで創りあげる」ということでした。「自分たちで創りあげる」という言葉は、響きこそ美しいものの、その裏には重い責任があり、前例に従う方が、私たちにとっても先生方にとっても楽であることは、誰もが分かっていました。けれども、その迷いや甘えに流されず、「創造」を選び、研修の意義やルール作成の段階から徹底的に話し合いを重ねました。

この挑戦で、いちから「創造」することへの責任を学んだことが、私たちの中の「克己」を確かに強くしたのだと、今になって気づきました。あのとき、私たちを信頼し、一歩引いたところで見守ってくれた先生方には感謝しかありません。

このような私たちの歩みを進めてくれたのは、他でもない、仲間の存在です。

入学直後、同級生は仲間というよりも、先を行く存在でした。その背中を追いかけて、追い越すのに必死になってしまう自分がいました。人の欠点を見つけてけなしたり、違いを理由に人を否定したりして、自分を守っていたこともありました。

そんな中、生徒同士の話し合いの中で生まれてきたのが「あなたをきかせて」という言葉でした。競い合うことは、悪いことではない。だけどそれは、人を否定していい理由にはならない。同じ九期生のみんなは、誰一人否定されていい存在であるわけがない。そんな思いから、私たちの学年目標「あなたをきかせて」が生まれました。この言葉を胸に行事や研修を重ねる中で、私たちは次第に、仲間として一つの目標に向かって進むことを覚えていきました。競い合いながら、だけど、支え合いながら、互いの存在を尊重する「敬愛」の気持ちを持てたこと。共に高め合おうとする「敬愛」の気持ちを持つことで、「克己」はより確かなものになると、九期生の仲間や先生方が教えてくれました。九期生の仲間と過ごした三年間を、私は本当に誇りに思います。

そして、私たちのこの歩みを陰で支えてくれたのが家族です。

努力が報われず、落ち込んで帰った日。特別な励ましの言葉があったわけではありません。けれど、いつも通りの食事、変わらない生活音。その「いつも通り」が、どれほど大きな支えであったか、今なら分かります。自分に向き合い、静かに打ち勝とうとする私たちのそばに、ただ変わらずいてくれた。その静かな信頼こそが、もう一步を踏み出す力になっていました。

先生方にも、心より感謝申し上げます。私たちを第一に考え、多くの機会を与えてくださいました。時には面倒だと感じ、反発したこともありました。しかし今、その一つ一つの機会は、先生方が私たちの成長を信じてくれていた証だったのだと感じます。そして、「型を身につけろ。個性はそこから生まれる。」という言葉。自分を律する“型”を持つこと。それはまさに克己の姿勢であり、高志の校訓の本質なのだと思います。

十期生、十一期生の皆さん。高志中学校の素晴らしさは、学習や行事だけではありません。何気ない毎日の生活の中にこそ、「己に克つ」機会が隠れています。その意志を受け継ぎ、さらに強くしていくのは、皆さんです。自分自身から目を逸らさず、ぜひ一步を踏み出してください。

私たち九期生も、高校生活という新たな舞台で、それぞれの「克己」と向き合い続けます。そして、支え合いながら、自らを律し、創り、敬い合える人でありたいと思います。

「己に克ちて礼に復るを仁と為す」

それはただの言葉ではありません。私たちは、高志中学校で学んだ「克己・創造・敬愛」の精神を守って成長していきたいと思えます。そのために新たな環境で学び続け、高志中学校の誇りを胸に希望溢れる未来を切り開いていくことを誓います。私たちを支えてくれた、保護者の皆様、先生方。これからもどうか私たちの一步一步を見守っててください。

そして、高志中学校に心からの感謝を捧げるとともに、高志中学校の益々の発展を心より祈念し、答辞といたします。

令和八年三月十九日

第九回 高志中学校卒業生代表